



～運転シミュレーターを付加した安全教育で交通事故0へ～
日頃の運転に気づきを与え、交通事故防止に向けた意識醸成



業種	製造業
事業所	埼玉県をはじめ、全国に事業所
導入開始	2023年1月より導入開始

導入のキッカケ・課題について

■ 交通事故0を目指す教育ツールとしての導入

同社は、自社工場をかまえ、全国に事業所を構える製造業企業である。そのため社員数も多く、通勤時に車を利用する社員の交通事故などが、年間で数件発生していた。

既に別の事業所では数年前から運転シミュレーターなどの活用をしており、今回の対象事業所でも導入を検討始めることになった。それまで交通安全のKYT研修（危険予知訓練）などを月1回開催しながら対策をとっていたものの、思うような効果が得られなかった点も影響している。結果としてHondaセーフティナビがもつ機能面をはじめ、医療機関でも導入されている実績から導入を決定した。

同社では導入前から交通事故0の目標を掲げており、運転シミュレーターを活用することで、社員への交通安全の啓蒙ツールとして活用を開始している。

運転シミュレーターの活用

■ 日常の運転に気づきを与え安全教育の啓蒙を強化

同社では、年に1回の安全教育を全社員向けに実施をしている。その中で、交通事故0に向けた教育の取り組みの1つとして運転シミュレーターを活用している。安全教育は運転のみならず、工場内の設備事故なども含めて、どのようにすれば事故やトラブルが発生しないかといった社員同士のディスカッションをはじめ、講義形式の座学なども実施されている。

今回導入した事業所では、この安全教育の一環の中で、運転シミュレーターを利用し、車で通勤している社員、出張で車を利用する社員、業務車両を登録している社員を対象に、年に1回実施している。コースも市街地コースの上級コースを設定し、年度ごとにコースを変更しながら運用している。

同事業所対象数は数百人にも上るため、順次指定されたスケジュールで実施をしている。運転シミュレーターを操作している場には、安全管理部の指導者が、対象者の運転の様子をチェックし、運転診断書に加えて気づいた点を1人ずつ丁寧にフィードバックしている。

自身の運転技術数値化をはじめ、普段問題なく運転している社員でも、改めて気づく点や自身の課題点を知る機会として、運転シミュレーターのメリットの享受につなげている。

運転シミュレーターの展望

■ 自社だけでなく、取引先への展開を目指し、交通事故0実現へ

実際に社員からも普段の運転でありうる状況のシミュレーションとして利用できるため、改めて自身の運転を見直すことができるといった声も発生している。

今後同事業所では、取引先の業者なども工場の出入り多いことから、工場内事故0に向けても関係会社を巻き込んだ啓蒙活動も検討していきたいという。安全教育の範囲を拡げることも見据え、目標とする交通事故0の実現をこれからも目指していく。



Hondaセーフティナビ
運転能力評価サポートソフト



【お問い合わせ】

本掲載記事へのお問合せは以下でお願いします。

株式会社マネージビジネス
03-6429-9977（シミュレータ専用ダイヤル）
シミュレータ製品担当営業宛